

伝統的農村風景を残す水路と共存する町並み

菊池市赤星地区(井手界限)
〔町並みの分類／農村〕

集落の中で分岐する水路

町並みについて

- ◆ 菊池氏の一族である赤星有隆を初代とし、「赤星荘」として開発されて以来の農村風景が残っています。井手沿いには、赤星有隆の屋敷跡碑や正林寺の楼門などがあり、菊池一族の繁栄を垣間見ることができます。
- ◆ 地域住民で組織される赤星堰管理委員会などにより保全活動が行われており、井手と共存する緑豊かな水田集落が作り出す農村の景観が維持されています。



町並みの中心(核)となる伝統的建造物



赤星井手

- ◆ 赤星井手は、赤星の集落内を流れる生活・灌漑用水で、築地井手と同じく加藤清正によって開削されたといわれています。
- ◆ 水路沿いの道路には柵などの設置はなく、四季を通して豊かな水量を誇る井手は地域住民の生活に今も深くかかわりつつ、懐かしい景観を生み出しています。



豊富な水量を誇る赤星井手

赤星井手界限は、緩やかな水の流れのある緑豊かな風景が評価され、数々の景観賞を受賞しています。地域住民の生活の営みとともに歩んできた、典型的な日本の農村とも言うことができる景観が、どこか懐かしさを覚える町並みを形成しています。